



発行: 一般社団法人日本造園建設業協会 編集: 広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
 〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012



第1回通常理事会で挨拶する藤巻司郎会長

5月31日、平成29年度第1回通常理事会を開催し、平成28年度事業報告及び決算など3議案を審議・承認した。当日は通常理事会に先立ち、総支部長等会議も開催し、今後の日造協の運営等について検討・意見交換を行った。

平成29年度第1回通常理事会を5月31日(木)、午後3時から、東京・千代田区の都市計画協会・会議室で開催した。

通常理事会の冒頭、藤巻会長は、「造園建設業界を取り巻く状況は、担い手3法を契機に大きく変化してきたと感じておりますが、依然として将来見通しが不透明な局面が続いている。このような中、技術・技能者の高齢化や若手入職者の減少、これに伴い技術・技能の承継が困難になるなど、諸課題が生じております。そのため、会員の方々のご期待に沿えるよう、機会あるごとに事業量の確保や優れた人材の育成・確保などに取組み、造園建設業の明るい未来を切り拓き、安全・安心で緑豊かな美しい国土づくりに貢献

していきたいと考えております。本日は、ご審議の程、よろしくお願い申し上げます。」と挨拶した。

その後、①平成28年度事業報告及び決算、②平成29年度通常総会の招集、③会員の入会の3議案を審議・承認。そのほか、平成29年度通常総会議案及び決議事項として、役員の補欠選任、「重点活動2017決議」(案)、報告事項として、会長及び業務執行理事の職務執行状況報告、平成29年度造園建設功労賞等の表彰、についての報告を行った。

また、当日は同会場で午後1時から、総支部長等会議を開催。通常理事会付議案件、平成29年度の入会促進をはじめ、今後の日造協の運営などを議題としたほか、意見交換を行った。

日造協等3団体で公園・緑地に関する要望行う



公園・緑地に関する要望を伝える正本事業委員長

自由民主党都市公園緑地対策特別委員会・都市公園緑地等整備促進議員連盟合同会議が6月6日に開催され、日造協

平成29年度

通常総会

講演会・意見交換会

6月23日(金)14:00～
 ホテルグランドアーク半蔵門
 東京都千代田区隼町1-1
 ☎ 03-3288-0111

会員の皆様のご参加をお願いいたします。

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！

本号の主な内容

- 2,3面 【特集】第11回造園技術フォーラム開催
 4総支部と学会から発表さまざまな技術を学ぶ
 公園の景観と管理～安全・安心の公園づくりを～/砂浜を緑に～在来植物による海岸緑化の取り組み～/アケボノツツジ里帰りへの道/沖縄県フラワークリエイション事業/津波被災集落跡地の海岸林再生活動における造園学徒の関わり
- 4面 【ふるさと自慢】秋田県 鈴木恒子(株)香楽園
 「秋田を味わう」オススメ！グルメイベント
 【緑滴】埼玉県支部 上野まさき(東洋ランテック株)
 私の住む町、川口安行

樹林

(一社)日本造園建設業協会理事
 (株)田澤園 代表取締役社長 田澤 重幸



フェアが個人の成長・業界発展の好機に

今月の6月4日、72日間の会期を終え『第33回全国都市緑化よこはまフェア』が閉幕いたしました。こうして横浜での開催を迎えたのも、皆様方の暖かいご支援・ご協力の賜物と厚く御礼申し上げますとともに、この間、多くの皆様にご来場を頂き、重ねて御礼申し上げます。

3月25日に開幕した『よこはまフェア』では、メイン会場である臨海部の山下公園、港の見える丘公園などの『みなとガーデン』、郊外部の『里山ガーデン』をはじめ、よこはま動物園ズーラシアなどの7箇所のパートナー会場、更には市内18区での取り組みなど、愛称の『ガーデンネックレス』の名の通り、横浜の街がテーマフラワーのサクラ、チューリップ、バラをはじめ100万本に及ぶ多種多様な花々や緑により、ネックレスのように鮮やかに彩られ、市の内外からお越しいただいた多くの皆様にその美しさを堪能いただけたのではないかと思っております。

私も各会場を何度も回りましたが、ベンチや芝生でお弁当を広げる家族連れや若者たち、花壇に見とれるお年寄り、熱心にスケッチや写真撮影をする方々など、幅広い年代の方々に楽しんでいただいている姿を見て、開催できた喜びとともに、肩の荷が下りた感じがいたしました。

今回の『よこはまフェア』の開催は、造園業界に大きな成果があったと考えております。まず、かつてない広域・大規模かつ短期の造園事業に地元とし

て対応でき、自信につながったこと。次に、新鮮な感性を盛り込んだ計画・デザインに沿った植栽・花壇作りに会社の枠を越え、技術者・職人が現場に即して知恵と工夫を出し対応できたこと。さらに、大きな現場を経験することにより、若手職人が自分の仕事の魅力を再確認し、使命感・達成感を得ることが出来たこと。また、フェアを通じ若者に造園の魅力をアピールできることなどです。

業界全体の問題ですが、造園技術を継承できる現場が減少し、緑地管理や造園土木系の仕事が多く、庭造りを行うにしても経験が乏しく、熟練の庭師が少なくなっています。造園は感性が大切な仕事でもあります。この感性を磨くには、多くの現場を経験し、切磋琢磨することだと考えます。

今回のフェア開催により、こうした課題を乗り越え、造園に携わる各個人を大きく成長させ、業界の発展につながっていく場になったと考えます。こうした機会を与えていただいた行政をはじめとした関係者の皆様に感謝に堪えません。

さて、横浜市におかれましては、横浜市瀬谷区の米軍施設であった旧上瀬谷通信施設において、国際園芸博覧会の招致を図るため、検討委員会での審議が始まり、実現に向けた歩みが進んでいます。

今後も、横浜市の『かけがえのない環境を未来に』を標榜する施策に最大限ご協力をさせていただきたいと考えるところであり、引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

2017年春の叙勲・褒章

日造協から5氏が受章の栄に輝く

2017年春の叙勲・褒章受章者が発表され、日造協関係で5氏が受章した。

【瑞宝中綬章】

有路信氏(70) 東京都、元建設省官房審議官、(一社)日本造園建設業協会理事、倫理委員会委員長



【旭日双光章】

中村米男氏(75)、群馬県、前橋園芸(株)会長



【黄綬褒章】

田舎豪裕氏(63)、長崎県、(株)庭建代表取締役

中野範之氏(72)、福井県、(有)中野造園代表取締役

松本雍司氏(77)、徳島県、(株)松本觀翠園取締役相談役

田舎 豪裕氏



中野 範之氏

松本 雅司氏

第11回造園技術フォーラムは4月19日、神奈川県横浜市の横浜市市民文化会館・関内ホールで開催しました。本号では発表の概要を紹介します。なお、造園技術フォーラムの資料は、日造協の会員専用サイトから「グループウェア」「ファイル共有」「07-造園技術フォーラム」でご覧いただけます。



フォーラムは冒頭、藤巻会長が挨拶。「全国各地から多数の皆様にご参加いただき、誠に有難うございます。

また、常日頃から日造協の諸活動に多大なご支援、ご協力をいただいております日本造園学会から、発表者として日本大学生物資源科学部教授の大澤啓志先生、講評者として日本造園学会会長の宮城俊作先生にご参加いただき、厚く御礼を申し上げます。私どもが携わる造園施工の分野は工事内容の多様化や技術の進歩に対応するために常日頃から新たな知識、技術の習得に力を注いでいくことがますます重要になっています。このような状況を踏まえ、日造協では、それぞれの現場で工夫し、高めてきた技術やノウハウの情報共有化を図るために、平成19年から造園技術フォーラムを開始し、今年で11回目を迎えることが出来ました。本日は、4総支部と学会からの発表、そして講評をいただきます。皆様には、良好な環境の保全や緑豊かな環境の創造に活かし、広く社会に役立てていただきたいと思います。また、フォーラムの修了



後は、関東・甲信総支部主催の交流会もあり、実り多き日となりますことを祈念いたします」と述べ、それからの発表、講評が行われ、卯之原昇技術委員長が「大きな会場で心配もしていましたが240名の方にお集まりいただき、関係各位に厚く御礼申し上げます。」と述べ、閉会した。

発表会後は、関東・甲信総支部主催の交流会を開催。加勢充晴総支部長の挨拶の後、宮城俊作日本造園学会会長が乾杯を発声、情報交換の場となった。

また、閉会に先立ち、次回緑化フェアの開催地である東京都を代表し田丸敬三支部長、平成30年秋開催地の山口県を代表し多々良健司支部長が現況を紹介。最後に開催地の神奈川県を代表し山田康博支部長が閉会の言葉を述べ、散会した。



公園の景観と管理～安全・安心の公園づくり～



関東・甲信総支部 埼玉県 近藤琢磨（株）八廣園

今回の報告は、埼玉県で行われた景観観察研修のまとめで、サブタイトルの「安全・安心の公園」とは、すなわち「快適で居心地の良い公園」です。

結論から申し上げると、開園から相当時間が経ち、寂れてしまった公園を樹木管理の面から、利用者にとって快適な環境に改善し、公園の活性化を図り、公園の良さを再認識して貢うという試みで、そのためには造園技術者がどのような提案を行うべきかを整理したものです。

研修では、完成から20～30年を経た県南部の11公園の現地視察を行い、意見交換と改善策の検討を行いました。

現状として多くの公園で、①薄暗い樹林地、②見通しを遮る株物、③草だらけ、裸地化している芝生広場、④ベンチなど老朽化した公園施設がありました。

街中の公園に求められるのは、明るい広場、風の通る木陰、安心して散策できる空間、小さな子どもを遊ばせながら親ものんびりできる環境、災害時への対応、街の美観や環境緩和であり、考えられる対応方策として、①間伐、②刈込、③芝生の再生、④地域や利用者の助けを借りることを掲げ、実際に実施しました。

暗くなった公園の樹林地を明るくするには、剪定では対応しきれず、3分の1



樹木を間伐し、明るくなった公園

から4分の1を残す程度の間伐がちょうどよく、緑が減ったという感じはほとんどせず、見通しの良さと利用者の安心感が確保でき、下草も生えやすい状況となることがわかりました。

株物は景観に大きな影響を与え、これにより景観と視界の確保のバランスが確保できます。視界不良は安心感を喪失させ居心地が悪く、他人の目が届きにくくと犯罪も起きやすくなります。毎年の刈込が望ましく、予算の関係で止むを得ない場合も2年から3年に1度は必要で、その際には、以前に刈り込んだ高さまで刈込まないと大きくなるばかりです。

芝生地は、多くの人が座りたくなる広場を望んでいますが、それには費用と手間が掛かるため、多くの公園管理担当者は諦めているのが現状です。

これらを限られた予算の中で実施するためには、①「程度」と「重要性」の考慮、②地域の力を借りる（ボランティアなどシステムの構築）、③管理計画（考え方の共有）が不可欠ですが、これこそが公園の管理に携わり、植物に関する技術とノウハウを持つ造園技術者の役割です。

居心地の良い公園、快適な空間づくりが地域の活性化、社会の発展につながります。私たちは、社会から求められるその責務を果たすためにも、今後、積極的に働きかけ、取り組んで行かなければならぬと思っています。



第11回 造園技術

4総支部と学会から発表

砂浜を緑に～在来植物による海岸緑化の取り組み～

北陸総支部 新潟県 今富 有紀（グリーン産業株）



在来の植物で海岸の砂浜を緑にするという取り組みをご紹介させていただきます。

新潟県は総延長635kmの海岸線をもち、広い砂浜や砂丘に在来植物が点在し、貴重な海浜植物も見られます。しかし、海岸侵食による生育地の減少や砂浜への車の乗り入れなどで、植生が衰退しています。

また、恒常的な飛砂被害に悩まされ、江戸時代から対策が行われていますが、現在も畠や駐車場が砂で埋まるだけでなく、大量の砂が山となり海岸道路に迫ってきたり、防災林のクロマツ林内に侵入し、機能を低下させています。

特に冬期は季節風により、飛砂が多いため、飛砂の発生源を緑化することで、砂浜を固定、安定化させ、飛砂を抑制することができる「はまみどり工法」を開発しました。

海浜は、貧栄養、乏しい保水性、強い日射と乾燥、高潮・波浪・飛来塩分、堆砂・侵食・生育基盤（砂）の移動、強風と砂による衝撃（枝葉の傷み）など、植物にとって厳しい生育環境ですが、砂の中にも埋土種子があり、栄養体繁殖をする地下茎や茎、根を緑化に活かすことができます。そこで、はまみどり工法では、新潟県で盛んなキノコ栽培後の廃菌



⑤砂浜の緑化例 ⑥施工方法と施工4カ月後の様子

沖縄県フラワークリエイション事業

沖縄総支部 沖縄県 神谷 朝太（株）平成造園



沖縄県は、観光が貴重な産業資源であることから、世界水準の観光リゾートの形成を目指しています。

こうした中で「沖縄県フラワークリエイション事業」は、沖縄観光の高付加価値化に戦略的に取り組む施策の1つとして掲げられた「国際的な観光ブランドの確立」に向か、熱帯植物が観光客にトロピカルイメージを想起させる有効な媒体であることから、観光主要道路の緑化空間形成事業として実施されています。

事業の実施にあたり、①台風、②著しい雑草繁茂、③限られた予算への対応が必要なため、台風時にも移動が可能で通年花を見せることができる「コンテナ植栽」と「1年草を用いた露地植え」とし、雑草抑制においては「アレロパシー植物の活用」を図ることとしました。

コンテナは、撤去が困難なコンテナの場合、悪条件にも強いブーゲンビレアでも生育困難になっている現状がみられることが、入手し易い尺鉢を用い、鉢の交換ができ、貯水槽からの底面給水が可能な構造のコンテナを作成しました。

床に着目し、その保水力と栄養分を活用した植生基盤を制作、この基盤を埋設し、砂の中の種子や栄養体、周囲からの自然侵入を活かして緑化する工法としています。

また、植物が健全に生育するための条件を整えることが大きな課題でしたが、長期間メンテナンスフリーで、植生を維持できる工法として、1995年に直接基盤改良方式の特許を取得しました。その後、施工性や菌床の臭いを改善するため、2014年に緑化マット方式を開発。品質の均一化と臭いの軽減、施工性の向上に成功し、特許とNETISも取得しました。

施工にあたっては、自生種の苗や栄養体を植栽・移植する早期緑化タイプと、自然発芽や発根など、自然侵入促進タイプを目的や状況に合わせて選ぶことが可能で、9都県、12市町村の約20箇所でマット方式が採用されています。

これまで砂草として植栽してきたオオハマガヤは平成27年に環境省の生態系被害防止外来種リストの重点対策外来種となり、防風柵、垣類は破損等が問題となっています。

こうしたことから、在来種による緑化工法の導入が広く求められており、今後も生態系の保全、侵食・飛砂対策に貢献していきたいと思っています。



⑤砂浜の緑化例 ⑥施工方法と施工4カ月後の様子

沖縄県フラワークリエイション事業

沖縄総支部 沖縄県 神谷 朝太（株）平成造園

また、開花期に合わせた適期適木の定期交換を行うため、材料の一覧や組み合わせについても事前に検討しました。

具体的には、3カ月に一度、季節のサイクルに合わせ、大多数を入れ替えるための材料検収をそれぞれの花苗生産場所を実施し、適格と認められたもので定期交換、週に1度の灌水作業時には、花つきの悪くなった鉢の交換や周囲の清掃等も合わせて行い、暴風予想の際は、迅速に撤去し、安全になった段階で復旧作業を行います。

露地植えは、観光地の主要道路大面積に、一年生草本類を植栽することで、トロピカルなイメージを演出。さらに、ガザニア、アメリカンブルー、ヤナギバルバラソウなどのアレロパシー植物を活用し、草本のみ、草本+低木など場所に応じた植栽とし、モデル路線での雑草対策実証試験・データ収集を行っています。

現在、コンテナの適期適木の絞り込みが進み、管理技術も向上し、今後さらなる効率化や品質の向上を目指しています。一方で、アレロパシー植物を用いた雑草対策については、植栽後、定期的な管理が設計されていない路線もあり、アレロパシー効果があるとは

フォーラム開催

さまざまな技術を学ぶ



会場のようす

アケボノツツジ 里帰りへの道

四国総支部 德島県 田川 弘 (南海造園土木株)



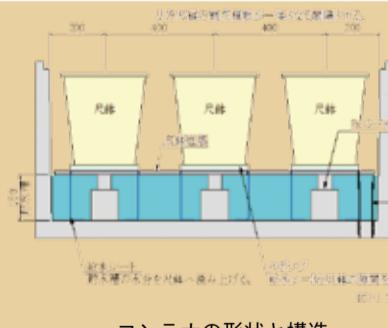
アケボノツツジは、近畿地方以西、四国、九州の標高1,400～1,800mに自生する落葉低木で、四国では高知県と愛媛県の県境に位置する足摺宇和海国立公園篠山地区に群落があります。平均樹齢は約80年とされていますが、自然更新しておらず、環境省は準絶滅危惧種に指定し、篠山の山頂風衝地にのみ発達した特異な群落は、環境省の特別植物群落に指定されています。

しかし、平成5年頃からシカの食害によるミヤコザサの衰退が目立つようになり、表土の流失とアケボノツツジの根返りが発生し、平成15年から24年にわたって環境省が「篠山アケボノツツジ群落保全事業」を実施しました。この取組みは、平成19年に発表させていただき、土留めの施工、根返り防止ワイヤーの設置、種子採取、育苗を行いました。この資料は日造協のホームページにありますのでご覧いただければと思います。今回は採種後の経過をご報告します。

採取した種は50,050粒で、発芽数9,816本、発芽率19.61%、苗の状態まで生育したのは345本で全体の3.51%。この苗を用いて実施したのが平



経過観察1回目(平成27年4月) 2回目(平成28年5月)



いえ、長期的には周辺地から飛散してくるチガヤ・スギナ・ギンネム等に覆われてしまうケースもみられます。

観光景観形成の重要度がますます増す中、亜熱帯の特殊環境における、台風・雑草対策を織り込みつつ、効果的にリゾート感のある景観形成を進めていくため、新たなフローラクリエイション手法の検討、継続した維持管理体制の構築が求められており、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

成26年6月の「篠山アケボノツツジ里帰り植樹祭」で、その後の管理は、環境省と地元ボランティアの方々が行い、私たちは生育調査を継続的に行い、順調ですが、年1cm程度しか大きくならず、生きているうちに花を咲かせた姿をみてみたいと思っています。ただ、これは群落地への里帰りではなく、この先に本来の取り組みがあります。

群落の母樹は、生育良好13.8%、幹折れ・幹枯れ47.7%など、約半数の樹木が高齢化などの問題を抱え、生育不良となっており、確認された約200本の後継樹は実生するものの環境の変化やシカの食害、利用者の踏圧などで、低木まで成長するものが非常に少ない状況です。

現段階では、自然状態での維持を基本とし、人為的な対策は最小限にとどめることとしており、母樹の保全と後継樹の保全・育生に努め、平成32年にそれまでの取り組みを踏まえた検討会を実施し、5年ごとに対策更新となっています。

貴重な自然資源であり、かつ歴史的資源、観光資源でもある群落を、周辺の自然林と合わせ、将来にわたって保全していきたいと思っています。

採取した種は50,050粒で、発芽数9,816本、発芽率19.61%、苗の状態まで生育したのは345本で全体の3.51%。この苗を用いて実施したのが平



経過観察1回目(平成27年4月) 2回目(平成28年5月)



①コンテナの配置例②台風等に備えた撤去作業の様子



①コンテナの配置例②台風等に備えた撤去作業の様子



①コンテナの配置例②台風等に備えた撤去作業の様子



①コンテナの配置例②台風等に備えた撤去作業の様子

津波被災集落跡地の海岸林再生活動における造園学徒の関わり

(公社) 日本造園学会 大澤 啓志 (日本大学生物資源科学部 教授)



今回の取組みは、2つの柱があり、将来にどのような緑を再生すべきかということと、住民自ら緑を再生し継承するための主体形成と地域性種苗の育生です。

どのような緑にするかは、残存した海岸林とイグネ(居久根・屋敷林)の実態調査や文献、ヒアリングによる調査研究で、研究者が頑張れば何とかなります。しかし、住民自らの取組みはそうはいきません。

住宅地は、そもそも地形を踏まえ、仙台平野南部のランドスケープ構造を丘陵・里山、沖積低地・農地・イグネ、浜堤・海岸林と捉え、逃げ場所のない沖積平野で、どのような街づくりを行っていったらいいかを考え、様々な選択の中、国の施策で国庫補助もある内陸に集まる形としました。

合わせて今まで地域固有の景観となっていたものは何かと考え、着目したものが6割の人が防災効果もあるとしたイグネで、これを新しい街に活かすこととしました。

それが「コミュニティ・イグネ」で、地域景観の継承から旧来の樹種構成を踏襲し、協働による育生・管理から緑を介した共有管理利用地(コモンズ)としてコミュニティ醸成の場、生物多様性保全の視点から地域性種苗を利用することとしました。

こうして、玉浦西地区の防災集団移転促進事業でのまちづくりにおいては、被災者ワークショップの実施などを踏まえ、ドングリ(コナラ)拾いから、実生苗づくりを開始。仮設住宅内で植え付けイベントを行い、農地の一角や地元造園会社の敷地だけ

でなく、集会所周辺にポットを並べることで、住民が日々の生長をみたり、水やりができるようにし、挿し木による苗木づくりのイベントも行うなどを続けていると、仮設住宅でじっとする日々の中、気晴らしになつてよかったですとの声も聞かれました。

一方で、海岸林を調査すると様々な発見があり、古くから人々がコモンズとして育生に取組んできました。

こうしたことを踏まえ、新しい街でも旧来のコミュニティを継承し、2015年4月までにほぼ350世帯の移転が完了した玉浦西地区は旧集落をまとめて配置し、中央部にコモンズのイグネが配置されました。

そして、玉浦西まちづくり住民協議会、岩沼市、ニッセイ緑の財団が協定を結び、津波で流された集落跡地で、住民の方々主体の復興への「希望の環」ドングリでつなぐ森づくりが実施されました。(写真)

この取組みにおいて造園学徒は、プランナー、生態学者、仲介者、ファシリテーターとして関わり、多くの人が関わり活動を通じて人の絆も深まる将来にわたって地域に根ざす緑づくりを行いました。

本日のフォーラムは、造園のビジネスや技術そのものに関心をお持ちの方も多く、それも重要ですが、様々なものをかけ合わせてできるのが、造園空間であり、造園や技術・工法が広まるためには、まず、造園の考え方方が人々に理解され、いいものだと思って貰うことが不可欠です。そして、こうした理解が得られれば、造園産業も技術もさらに発展していくと確信し、この話をさせていただきました。



講評



本日の発表について、私なりに①発表の論点、②コンセプト、③技術として扱う場合の処方、④今後の課題として、将来への可能性を整理させていただきました。

公園の植栽管理は、①公園の「快適性」「機能性」「景観性」「安全性」の維持向上と緑の「自然性」とのバランスについてであり、ある意味で相反するものの②樹木群の形状の動態的な最適化で、③適正な「引き算」の維持管理だと思います。公共事業において、引き算は難しい面がありますが、今後、④各公園の広域的な位置づけに基づく固有の維持管理方針、予測手法(ビジュアルシミュレーションなど)の適用、事例の蓄積・データベース化の可能性があると思います。

在来種による海岸緑化は、①在来種による大面積海岸緑化工法の有効性、②地域の物質循環と環境ポテンシャルの活性化・顕在化、③「はまみどり工法」とマットによる施工性の改良、④長期的視点にたった継続的なモニタリング、局所的な環境圧による植生変化への対応、汀線から内陸にかけてのエコトーン形成への展開、マットを使用した景観パターンの形成で、さらに活用できます。

アケボノツツジ群落の保全再生は、①希少植物群落の保全再生と国立公園の保護と利用の整合、②在来固有種の保全再

(公社) 日本造園学会 会長 宮城 俊作

生手法の実証実験、③「アケボノツツジ」の母樹、後継樹の総合的保全再生技術、④短期的な植生の不可逆性を受容することの必要性、在来固有種個体群から植生の相観への保全目標のシフト、人為的干渉のレベルと適用範囲の段階的な試行の継続で、多面的な考えが必要です。

沖縄フローラクリエイションは、①亜熱帯における花卉・花木を用いた景観形成手法の有効性、②持続可能なフローラランドスケープ、③鉢交換型コンテナ植栽、一年生草本の路地植栽、アレロパシー植物の導入、④コンテナの存在感の抑制と維持管理効率のバランス、鉢交換を可能とする新たな植栽形式の開発、亜熱帯における植生変化のダイナミズムの活用が考えられますが、まず、コンテナのデザインを改善するといいと思います。

皆さんの発表は、長期にわたる継続的な取組みの成果であり、地域に固有の課題について、真摯に取り組まれていることがわかりました。時間や気候風土への配慮は造園のベースであり、これらについてきちんと成果がまとめられ、成果の数値化、客観化、視覚化にも努力され、訴求力のあるプレゼンテーションでした。

一方で、植物に関する個別の要素技術から、造園の総合的な技術体系へと成果を発展させていくという意識を持っていただくとさらにいいと思います。「造園技術報告集」への投稿など、より多くの機会を通じて発信していただきたい。

ふる
と
自
慢
秋
田
県

秋田を味わう オススメ！グルメイベント

「きりたんぽ」「はたはた」他県の方に秋田のいいい物で連想するものを聞くと大体こんな感じでしょう。

どの地域でも隠れた名品、地元で愛される一品はあると思いますが、私のオススメするグルメイベント3つを紹介します。

◆ まず1つ目は「肉」しかも「馬肉」と「牛肉」。秋田では三大地鶏の一つ比内地鶏が有名ですが、同じ県北地域では馬肉の焼き肉、煮込み、馬刺し等を提供する専門店的なお店もあります。

煮込みやカレーはクセもなく初めての人でも食べやすく、レトルトやパックになっているものがたくさんあるのでお土産にぴったりです。

県内の飲食店では馬刺しを



⑤馬刺し ⑥馬肉煮込み

提供するお店がたくさんあり、秋田のおいしい地酒がゲイゲイすみます。焼き肉屋さんでは桜ユッケなどもありますね。

牛肉は秋田牛、秋田由利牛、鹿角短角牛など他にもブランド牛がたくさんあります。

◆ 肉を味わえるイベントとしては大館の「肉サミット」色々な肉が楽しめます。他に各地域で「〇〇牛まつり」が夏から秋にかけて開催されています。



サシが入った
秋田由利牛

◆ 2つ目は「日本酒」。秋田県には37の酒蔵があり、中には500年以上続く日本で2番目に古い酒蔵もあります。多くの飲食店で飲み比べセットが提供されており、県内多数の日本酒のきき酒や発酵食品が楽しめます。



植木産地の風景



◆ 見ているだけでも楽しく癒される場所です。ここに行けば大概の樹種名がわかるため、疑問を解消するには最適のところです。売店で美味しいお団子にも出会えるため、ついつい定期的に足を運んでしまいます。

◆ 安行に越してきた頃には正直、車がないと何も出来ない不便なところだと思いましたが、住めば都といいますが、今ではこの町をとても気に入っています。子供達が子育てをするような頃になんでも、今と変わらず、緑豊かな土地であり続けて欲しいと願っています。



⑤比内地鶏煮込み ⑥比内地鶏の出汁がうまいきりたんぽ

◆ 私が住んでいるのは、「植木の町安行」として知られる埼玉県川口市安行です。日本三大植木産地の1つで、緑化産業の街として栄えてきた地域です。樹木や花々を通して季節を感じることができます。安行で育った主人に言わせると、嘘かホントか、この辺りは近隣の学区域より気温が1~2度低いのだそうです。それくらい緑被率の高い所です。

◆ 地元の小学校では、植木の町ならではの授業があります。「自分が住んでいる地域を学ぶ」という地域探検の授業では、校外学習でナーサリーの見学に行ったり、親子体験学習の授業では、学校に造園業者さんをお招きし、親子でわいわいミニ盆栽を作ったりと、なかなか珍しい体験をすることが出来ます。

◆ 名前が気になる樹木に出会った時には、道の駅「かわぐち・安行」に出掛けます。沢山の草花や植木が販売されていて、



エンジン刈払機アタッチメント
スーパー カルマー Rotary Scissors
回転ハサミ刈りで
石跳ね事故を未然に防ぐ

国土交通省 NETIS 過去登録製品 「日本建設機械施工大賞」受賞製品

回転ハサミ & 減速システム
展示会情報 ~会場で実演します~
第2回 時代に求められる建設技術の専門展示会
建設資材展
会期: 2017年7月19日(水)~21日(金)
会場: 東京ビックサイト東ホール

IDECH 株式会社アイデック
IDECH CORPORATION

〒675-2302 兵庫県加西市北条町栗田182
TEL.(0790)42-6684 FAX.(0790)42-6633
E-mail:info@idech.co.jp HP: http://www.idech.co.jp



⑤醸しまつり:
ニコちゃん
お猪口

⑥飛良泉



◆ める「醸しまつり」や2月からの「酒蔵開放キャンペーン」期間中にいくつかの酒蔵イベントが開催されるので、たくさん試飲して自分好みのお酒を探してみてはいかがでしょうか？

◆ 最後は三大うどんの一つ「稻庭うどん」。薄く平たいツルツルとした喉ごしが良いうどんです。各お店ではモチモチした食感の生麺も食べることができます。最近ではお年寄りや赤ちゃんにも食べやすいように小さく刻まれた「まごうどん」というのもあります。さらには年越し蕎麦ならぬ年明けうどんがあり、1月の寒空の中で熱々のうどんが無料提供されます。

湯沢市では秋に「うどんEXPO」というイベントがあり、稻庭うどんだけではなく全国のうどんが集まるイベントで、地酒が楽しめるBarや地元の出店がたくさんあります。



うどん EXPO より
⑤稻庭生パスタ
⑥鶏塩の稻庭うどん



横手
やきそば

◆ ます。

私は初開催から毎回かかさず足を運んでいます。熱々の煮込みをアテにキリっと冷やした冷酒、稻庭うどんで〆なんていかがでしょう？

◆ 秋田にはまだまだおいしい物がたくさんあります。

ただちょっと人見知りで恥ずかしがり屋なこともあります。PR不足な事もあるでしょうからご自身で来て、見て、味わって下さい。お待ちしております！！

鈴木 恒子 (株)香楽園)

平成29年度 全国安全週間

準備期間 6/1 ~ 6/30
安全週間 7/1 ~ 7/7

◆ 平成29年度全国安全週間が、厚生労働省、中央労働災害防止協会の主唱で行われ、7月1日から7月7日までを安全週間、6月1日から6月30日までを準備期間として実施されます。

◆ 平成29年度の全国安全週間のスローガンは、「組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動 未来へつなげよう安全文化」となっています。

◆ 日造協では協会名入りポスターを配布していますので、ご活用ください。



事務局の動き

【5月】

- 9(火)・広報活動部会
- 10(水)・人材育成研修のトライアル実施
・女性活躍推進部会(造園の仕事編集会議)
- 12(金)・植栽基盤診断士認定委員会
- 15(月)・運営会議
- 17(水)・「公園緑地樹木管理士」講師説明会
- 18(木)・総務委員会、財政・運営部会合同会議
・第5回緑・公園関係団体協議会
- 22(月)・監事監査
- 23(火)・街路樹剪定土認定委員会(試験部会)
- 28(日)・技能五輪 第2回造園競技委員会・競技課題トライアル
- 29(月)・ランドスケープコンサルタント協会懇親会
・教育訓練協会 20周年記念祝賀会
- 30(火)・東北地区緑化団体協議会総会講演会
- 31(水)・総支部長等会議
・第1回通常理事会
・役員懇親会
・建設産業専門団体連合会総会、理事会

7(木)・九州緑化懇談会

8(木)・技能五輪 第3回造園競技委員会

10(土)・第28回全国「みどりの愛護」のつどい

12(月)・日本花普及センター理事会

14(水)・全国高等学校造園教育研究協議会包括協定打ち合わせ

15(木)・全国建設研修センター評議員会

16(金)・技術・技能部会

19(月)・中央職業能力開発協会総会

20(火)・日本造園修景協会評議員会

21(水)・都市緑化機構評議員会

23(金)・通常総会、講演会、意見交換会
・地域リーダーズ勉強会～6/24

27(火)・公園財団平成29年度第1回評議員会

28(水)・建設業適正取引推進機構評議員会

29(木)・技能五輪部会

委員会等の活動

●財政・運営部会 合同会議

平成28年度事業報告及び決算報告、平成29年度活動計画及び課題について審議した。(5/18)

●技術技能部会

トライアル実施でテキストの内容の確認を行った。(5/10)

●植栽基盤診断士試験部会

植栽基盤診断士認定試験問題(案)について検討した。(5/9)

●女性活躍推進部会

造園の仕事の編集会議を行った。(5/10)

◆ 編集後記 気持ちの良い季節は短く、あの酷暑とシメシメした日々が目前になりました。皆様こまめな水分補給と十分な睡眠を！夏バテや熱中症にはお気を付けて！